そない言われても、ねえ

間違いじゃなし、むしろ親切
でも…でも、もっとホラさ〜

■岡崎付近

当事者たちにとっちゃあ、恐らく至極当然なのでしょう。笑いの余地ゼロ。が、ひとたび世間一般の冷静な目を持ってすれば…ニヤリ。確かに読みづらい…でも、せめてカタカナ使いにするとかさ〜。これじゃ、英語のガイドブックに「Restaurant I don't know」なんて掲載されていても文句は言えないかも？ 旅先でテンション振り切ってる英語圏観光客相手じゃ、説明だってできやしないかも？ なんて姑チックな小言をたらしてしまうオレ甘探検隊員・24歳女性独身。失礼しました…。

今月の オレが甘かった

キ、キター！

危険知らせる「オーイオーイ！」
もしやフツーに使われてるの？

CFスタッフM娘が、クラクション代わりに運転手が「オーイオーイオーイ！」と叫ぶタクシーに遭遇したことは既に紹介済みだが、先斗町界隈をウロウロしていたオレ甘隊員も、極めて近いケースに遭遇。夜も更けた先斗町通りを、お使いを済ませて足早に歩いていたまさにそのとき。「オーイオーイオーイ！」。キ、キター！ 声の主はチャリに跨ったオジイサン（推定70歳）。呆然と見送る隊員なぞ見向きもせず、夜の闇へと消えてゆきましたとさ…。

■今回は先斗町通り
（市内全域の可能性も？）

夜ともなれば、そぞろ歩く人で賑わう界隈。が、夜も更ければ、あのオジイサンの如き人も現れるのかも。っと、その前に先斗町通りは自転車通行禁止のハズだ

I am a みやげマニア!!

100年後にも残したい
京都おみやげファイル

京都クリエイティブイマジンの宵待蛍

うちわに込められた先端技術
見てみたい…見てみたいよね？

うちわを仰げば絵の中の発光ダイオードが光を放つ、という他に例を見ない夏らしい一品は、一昨年の祇園祭にて販売するや否や、売り切れとなった伝説的商品。もともと研究の一環としての側面が強く、利益を生み出す商品というよりも、記念品的な意味を込めて世に送り出したものだったらしい。が、予想外の売れ行き&周りの反応で、今では毎夏、新作を発表するほど人気商品へと成長。確かに「どんなもんか見てみたい」という気にさせるモノ、おひとついかがです？

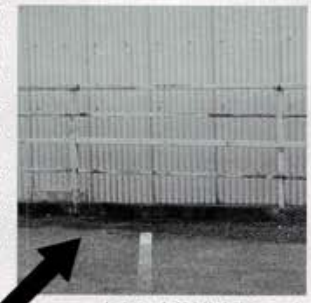
「宵待蛍」1995円〜。発光ダイオードを使用しているため、電池などと違って半永久的に使用できる画期的なアイテム。ネットでの販売の他、京都市内では高島屋などでも入手可能

■株式会社 京都クリエイティブイマジン
☎075・682・4088
http://www.kyoto-kci.jp/

だるまのその後

な、ない！だるまよ何処へ？
（まだ見てない人は8月号を！）

先月登場した、某ラーメン店に佇むアレをおぼえていますか…そう、真っ赤な顔して、誰かにもらわれていく日をひたすら待ってたアレです、だ・る・ま。「譲ります」の看板に「そんな奴おらんやろ〜」とツッコむのが、おいらの日課だったのデス…それなのに。な、なくなってるぅぅ！ まさか貰い手が見つかった？ 先月号を読んだ誰かさんが、貰ってくれたのかしらん。それはそれで、と思ったそのとき、気づいちまった。まだあの号、発売してなかった（6月末現在）…。



ある日、忽然と姿を消していただるまちゃん。ホラ、先月の写真と比べてみて…って、コレだけ見たら、何が何だか分かりませんよね。えらいすんません

駐車場に佇むの図。よく見れば、横に「ゆずります」看板が見える

■JR向日町駅付近のラーメン店

林的映画三昧

イラストと文 ハヤシチサコ

ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。
「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。